

Heroldo de HEL

N-ro 134

Marto 2011

HOKKAJDA ESPERANTO-LIGO

北海道エスペラント連盟

[Enhavo/目次]

- 表紙、Enhavo/目次 P. 1
- 全国セミナーに参加しましょう —締め切り迫る!— P. 2
La 44-a Esperanto-Seminario, Sapporo(3-5 majo, 2011)
-Ni haste aliĝu!-
- ぶらりサッポロの散歩道 P. 4
- 我が二風谷 P. 8
- Danke ricevitaj —受領郵便物— (星田淳 扱い) P. 14
- Rusa rok-poeto Ilja Kormilcev/ロシアのロック詩人イリヤ・ P. 15
コルミルツェフ/Korĉmarjov M. E.
- [第3回委員会報告] Protokolo de la 3-a Komitato Kunsido P. 18
- [第99回日本大会第5回KK議事録] Protokolo de la 5-a Kunsido de P. 19
Loka Kongresa Komitato por la 99a Japana Esperanto-Kongreso
- [編集後記/Redaktanto parolas ...] P. 20

4~13頁の文は 来たる5月初めて札幌で開かれる JEI全国セミナーの作文
コース(柴山純一講師)に参加する方が選んでエスペラント訳するための課題文
です。2頁の下の「中級/上級は」以下を参照してください。

全国セミナーに参加しましょう —締め切り迫る!—

La 44-a Esperanto-Seminario, Sapporo(3-5 majo, 2011)

-Ni haste aliĝu!-

HEL 事務局長・現地世話人 川合由香

KAWAI Yuka (Sekretario de HEL, Loka zorganto de la seminario)

HEL 研究教育部次長 阿部映子

ABE Eiko (Vicestro de Stud-Eduka Fako de HEL)

Okazos tutlanda Esperanto-Seminario en Sapporo en venonta ora semajno. Tio estas bona ŝanco por ni, hokkajdanoj, por lerni kaj interkomuniki kun samideanoj el aliaj regionoj de Japanio. La intensiva kaj gaja seminario estas certe partopreninda. Ni ne perdu tiun ĉi okazon!

44回目を迎える日本エスペラント学会(以下JEI)主催のエスペラントセミナーオ(以下全国セミナー)。JEIの「La Revuo Orienta」(以下RO)2月号をお読みになった方はご存じだと思いますが、今年はこのわれらが北海道・札幌で開催されます。全国セミナーが津軽海峡を越えるのは初めてのことだそうです。本州以南での行事にはなかなか参加しづらい私たちにとって、全国の仲間とともに学習し交流するまたとないチャンスです。

コースは初級・中級会話・中級/上級(作文)・自主クラスの4つです。初級は「使える言葉エペラントを実感しよう」をテーマに、わがHELのveterano・星田淳氏が講師をされます。

中級は「もっと自信を持って!」と、アルゼンチン生まれのアティリオ=オレラナ=ロハス氏による文法あり、遊びあり(ROによる)の会話コース。

中級/上級は「エスペラント文作成講座」と銘打って、JEI理事長の柴山純一氏が講師となつての実用的文書のエス作文。事前にA4用紙1枚程度の文章を作文(翻訳も可)。この元の文ひとつとして、北海道・札幌の観光案内(HELの後藤義治氏が用意)が提供されます。作文力を鍛えたい方はこのクラスに参加してこの号の4頁~7頁にある後藤氏の文から選んでください。

8~13頁の我が二風谷(萱野茂著「アイヌの碑」より)から選ぶこともできます。この部分の試訳を参照されたい方は後藤氏(電話・FAX 011-864-4533)に問

い合わせてください。

自主クラスとは、R02月号には掲載されていませんが、高い会話力のある方を対象に、講師抜きで討論をしていただくものです。3月4日時点で1人の外国人（日本を旅行中の人など）が参加を申し込んでいるそうです。内外のエスペランチストと積極的に会話したい方はこのクラスへどうぞ。

場所は、HELの切替英雄氏が提案してくださった、真駒内の北海道青少年会館（地下鉄真駒内駅より徒歩20分またはバス8分）です。日程は5月3日13時より5月5日12時までの3日間。3日夜には親睦会があります。芸達者な方募集中だそうです。また、4日にはJEI検定試験と新テストを受験できます。自分の実力を試したい方は、ぜひ挑戦してみてください。

気になる参加費用は、宿泊2泊・5食付きで26000円、宿泊なし・食事5食で16000円です。お住まいが近くて自宅から通えるという方は後者を選んでお得に受講ができます（会場には無料駐車場200台分あり）。心身障害者・学生には5000円の割引があります。

全国セミナーは、首都圏とそれ以外とで交互に繰り返されています。「例年は北海道からの参加者が少ないので、この機会をお見逃しなく」とJEI側からは期待の声がかけられます。今年は恒例のHEL5月合宿／初夏合宿は開催されません。その代わりという意味もありますので、皆でこの全国セミナーにこぞって参加しましょう。セミナーの定員（宿泊可能数）は35名で、3月4日時点で13人が申込んでいます。申込方法は、R02月号綴じ込みの申込書を郵送・ファクス・メール添付でJEIセミナリーオ係へ。

上記の綴じ込みの申込書が手元にない方は、以下のページから入手できます。クラス案内・交通案内・時間割・参加費詳細もこのページに掲載されています。
<http://www.jei.or.jp/hp/materialo/E-Seminario2011.pdf>

JEI会員でない方は、この機会に入会されることをお勧めします。全国の仲間たちの動きがわかり、学習の励みになりますよ。機関誌R0には海外のニュースや文通相手紹介なども掲載されてきます。

JEI会員でなく、かつ、インターネットが使えなくて申込書が入手できない方は、80円切手貼付の返信用封筒を同封して下記まで郵便でご連絡ください。申込書その他案内詳細（R0からの複写物）をお送りします。

〒072-0016 美唄市東5条南5丁目2-21 川合由香
参加申込締め切りは4月10日です。お早めに！

ぶらいサッポロの散歩道

はじめに

その昔、北海道はアイヌモシリ（アイヌ民族の静かな大地）でした、そしてアイヌの樂園でもあったのです。当時、倭人は北海道を蝦夷地と呼んでいましたが由来はわかっていません。蝦夷地は資源が豊富だったから和人が大勢やってきました。中でも力のあるものは「館」（城と交易の拠点）を築きました。こうして渡島半島には館が7箇所できたのです。城ができれば戦いが起こります。アイヌ民族との戦いは1456年から、約80年間続いたのです。コシャマインと戦って止めを刺したのは武田信廣です。戦いが終わると彼は「上ノ国の館」（蠣崎家）の後継者になります。家康の姓（松平）の「松」と秀吉の家臣、前田利家の「前」を取って「松前」と名乗りました。1599年のことです。こうして蝦夷地とそこに住むものを治め、港に出入りする船から税金をとり、大名と同じ力を持って、人からも松前藩と呼ばれる様になったのです。

観光の対象になるものは何か

時代は下って1869年、明治政府は蝦夷地に開拓使を置きました。初代の長官は、北方地理に詳しい元佐賀藩の藩主、太政官次官鍋島直正が任命されました。同年8月15日、蝦夷地は「北海道」と改められたのです。開拓史の建物は今でも「北海道開拓の村」に再現されています。北海道の地名は殆どがアイヌ語です。札幌もSat-por-petに漢字を当てたものです。地名を決めたのは北海道をくまなく調査した松浦武四郎の建議によるものです。今私たちは地名を看板で確認をしますがアイヌ語の地名は地形やその土地の成り立ちを現しています。だから看板はなくてもその土地に立てば地名がわかるのです。たとえば豊平は[tuye-pira(川水が)崩す崖]平岸[pira-kesi崖のはずれ]厚別[hash-pet 灌木の川]など札幌の地区名です。

先住民族のアイヌは狩猟漁労民族ですから数え切れない知恵と文化は残していますが、記念碑や建造物はないのです。すべてはカムイ（神）からの贈り物で時が経てば朽ち果てる。という基本的な概念に従っているからです。では、何が残っているのでしょうか、先ほど述べたように和人が入ってきたのは1869年ですから、歴史はたった142年しかありません、殆どが開拓史にまつわる物ばかりです。ではその幾つかを紹介しましょう。

1、札幌時計台

全国的に最も有名なものが札幌市時計台です。1878年、現北海道大学の前身札幌農学校の演武場として建てられました。札幌市と冠が付くのは札幌市の市民憲章に「私たちは時計台の鐘がなる札幌市民です」とあるからです。建物の様式は米国マサチューセッツ州立農科大学を模したと言われています。2階には時計台ができたときと同じ時期に米国ハワード社が製造した時計の動力部が展示されています。日本三大ガッカリ名所と悪口を言う人もいますが展示資料はどの博物館より充実しているのが特徴です。

札幌市中央区北一条西2丁目

地下鉄大通り駅から徒歩3分

入館時間 9:00 17:00 月曜休館（祭日の場合は翌日）

入場料 大人 200円 子供 無料

2、北海道大学総合博物館（旧札幌農学校校舎）

もと理学部だった建物が博物館として生まれ変わった。開学以来130年にわたって収集してきた学術資料が展示されています。圧巻は37万年前のマチカネワニ（1965年豊中市の待兼山で発見）の骨格や世界で始めて発掘された恐竜デスモスチルス（生存期間は1500～1600万年前といわれ、サハリン気屯で1933年発見された）などだ。外に出ると初代教頭で有名なクラーク博士の胸像や、フランス・ルネッサンス様式を取り入れた古河記念講堂があります。広大な農場などを散策するのはうってつけの場所です。

札幌市北区北10条西8丁目

JR札幌駅から徒歩12分

入館日時 10:00～16:00 第1・3・4土・日、祭日休み

入場無料

3、札幌開拓使麦酒醸造所

明治9年（1876）9月に開業した開拓使直営のビール醸造所、1883年開拓使が廃止された後、農商務省の所管を経て、1886年北海道庁に移管されました。間もなく東京の大倉組みに払い下げられ翌年（1887）、札幌麦酒株式会社に改称した。現在も建物はそのままだが内部は地ビールの工場になっている。そのビールは隣接のサッポロファクトリー・アトリウムで味わう事ができます。

札幌市中央区北2条東4丁目

JR札幌駅からバス（3番乗り場）で6分

入場日時 9:00～ 年中無休

入場無料

4、北海道庁旧本庁舎

通称「赤レンガ」と呼ばれ親しまれており、観光客は後を絶たない。庁舎は明治19年（1886）に着工、2年後の12月に竣工した。以外にも設計は道庁の土木課、アメリカ風のネオ・バロック様式の建物。屋根はスレート葺き、地下1階地上2階、一部3階建て建築面積は500坪。基礎部の石材は山鼻の硬石山の産、レンガは白石村の煉瓦工場で焼いた。昭和42年（1967）12月、国史跡に指定され、1969年4月に国の重要文化財に指定された。1947年4月、32代北海道長官に田中敏文最後の長官として任官、翌5月初代の北海道知事になった。

札幌市中央区北3条西5丁目

JR札幌駅から徒歩9分

入場時間 10:00～

入場無料

5、札幌市資料館

大正15年（1926）札幌控訴院として建てられました。第二次世界大戦後は札幌高等裁判所になる。昭和43年（1973）11月、北側に新庁舎が出来たのを機に札幌市資料館として現在に至る。建物は左右対称の煉瓦造りで基部は石山軟石、総2階一部3階建て、軟石建造物としては全国的にも珍しい。2階は展示室でひと目で札幌の歴史がわかる。展示室の半分は絵画や芸術作品のギャラリーとして一般に開放されている。

札幌市中央区大通西13丁目

JR札幌駅から徒歩15分、バス・地下鉄も利用できる

入館時間 10:00～18:00

入場無料

6、大倉山スキー競技場

自然を利用した日本有数の本格的ラージヒル競技場。今年の1月、中学生の高梨沙理という女の子が130メートルの大ジャンプをして話題になった。高い所をものともしないつわものでも、スタート台に立つと足がすくむ。この台の前身は北海道のスキーに貢献したノルウエーのヘルセット中尉が設計し、大倉喜七郎男爵が資金を出して昭和6年（1931）に完成した。当時は60メートル級のジャンプ台だった。初めて100メートルを超えたのは雪印乳業の菊

池定夫で1963年2月22日の事である。1997年10月から夏でも飛べるようになった。

札幌市西区宮の森1274番

地下鉄円山公園駅からバス(荒井山線)約10分

夏季 8:00 ~ 18:00 冬季 9:00 ~ 17:00

展望台へは 往復大人 500円 子供 300円

7、中島公園

札幌市が中央区南9条~14条、西3丁目~5丁目に展開する都市公園で豊平川と鴨々川に挟まれた小ニューヨークのような地形だ。夏は樹木が生い茂り緑と水のオアシスになる。広さは22ヘクタール、明治19年に整備した時点では54, 3ヘクタールあったが、大正8年(1919)頃に現在の広さになった。園内には茶室八窓庵を備えた日本庭園があり、洋風建築の粋を集めた豊平館、日本一の音響効果を誇るコンサートホール「キタラ」、道立文学館、天文台、体育センターなどの施設がある。菖蒲池では家族や恋人たちがボートを浮かべてのんびりと時を過ごす。

地下鉄中島公園駅が北口、南口は豊平橋駅

いつでも入園できる

入園無料

8、北海道開拓の村

開拓の村は名が示すとおり、北海道の開拓が始まった明治初期から大正にかけて建てられ、使われたものが広大な敷地に展示されている。市街地には明治27年(1894)創刊の小樽新聞社を中心に、入り口が札幌停車場、ついで開拓使本庁舎、郵便局、寺院、北海中学校、医院、酒造所、理髪店、商店、交番など31棟が軒を連ねる。郊外に出れば漁村群、農村群、山村群等があり、当時の建物の内外で暮らしの実演が行われている。街の中心部を馬車鉄道が走り、大人270円で乗ることができる。またハイキングを楽しむにも最適の地形だ。

札幌市厚別区厚別町小野幌50-1

JR新札幌駅からバス(開拓の村)行き、約15分

夏季 9:00 ~ 17:00 冬季 9:00 ~ 16:30 年末年始は休村

夏季(4月~11月) 冬季(12月~3月)

入場料 一般	830円	680円
高校・大学生	610円	550円



我が二風谷

(1-1) 自然と慣わし

空にはちぎれ雲ひとつなく、紺碧の大空が広がっています。沙流川対岸の松林はやや黒ずんで見えますが、それ以外の大地は雪に覆われて全くの純白です。



このような北海道の冬景色を初めて見る南国の人は、きっと、この大地に足を踏み入れるのは躊躇するに違いありません。なぜなら、私が南の国へ行った時、一面緑の草を靴で踏み付けるのがためらわれた事があったからです。

私は、抜けるような青い空、黒ずんだ対岸の松林を遠くに見ながら、ぎゅっぎゅっと真っ白な雪を踏んで、近所の90歳になる貝沢トウルシノさんの見舞いに出かけました。

トウルシノさんの家の前に来た私は、玄関の右上にフレアユシニ(木イチゴ)の枝が一本刺してあるのに気が付きました。このフレアユシニは、風邪避けの呪いです。私が子供の頃、どこか近くの村で風邪が流行っているという噂が伝わると、私たちアイヌの家では一軒のこらず、萱葺きの家の入口や窓にこのフレアユシニを刺したものです。

トウルシノさんの家は、どこのアイヌの家もそうであるように、耐寒ブロックの現代風の建物です。それなのに、90歳を過ぎたトウルシノさんは、もはや忘れ去られてしまったと思っていたこの風習を、なんの躊躇もなく行っていたのです。私はその一本のフレアユシニを見た途端、思いは40数年前の我が家に戻ってしまいました。

(1-2) 住まいと生活

昭和7、8年ごろの二風谷の我が家は、アイヌ家屋特有の茅の段葺きの屋根に板囲いでした。壁代わりの板囲いも、三分板を一重に外側から打ち付けてあるだけ。しかもその板は反り返り、大人の握りこぶしが楽々通るぐらいの隙間が開いていました。ですから冬が近づくと、母と姉が大量に糊を作って、新聞紙等を板壁の内側に貼り、隙間風や雪の入ってくるのを防ごうと努めたものです。

時代はやや下りますが、昭和14年に冬の二風谷を撮った写真があります。撮影者はイタリアの民俗学者フォスコ・マライニ氏です。その写真に写っている私の家は、いわゆる母屋の他には、食物の貯蔵小屋はもちろん、物置一つありません。ただ家の外には便所がぼつんとあるだけです。

そういう貧しい家でしたが、私たち兄弟は元気で雪の中を跳び回り、そり遊びに夢中になったものです。着ている物といえば、股の割れたメリヤスの股引をはいていましたが、カバラミブ（夏の着物）にマタミブ（冬着）を重ねただけでした。

そんな格好でそり遊びに夢中になり、急な坂等を滑り降りると、着物の前がはだけ、股引の割れ目から雪が入り、おちんちんにかかって、「えっえっ」と息が詰まったものです。遊びほうけているうちに、段々寒くなり、手はかじかみ、小さなおちんちんは益々小さくなり、トラマメ（インゲン豆の一種）ぐらいになってしまいます。

その頃になって初めて我が家を思い出し、両手を口に入れて暖めたり、はぁはぁ息を吹きかけながら、一目散に駆けて帰ります。そして家が見えると、わっと泣き出したものです。すると、泣き声を聞きつけた母が家から出てきて、着物の裾や尻のところに凍りついた雪を払い落としてくれるのです。そして真っ赤になって氷のように冷たくなった私の手を、母は自分の胸に入れて、おっばいの間に挟んで暖めてくれました。

その頃の我が家には、嘉永三年（1850）生まれの祖母と、父と母、姉、二人の兄、そして私、それに二人の弟の9人家族でした。10坪ほどの家にこれだけの家族がいるのですから、なかなか賑やかなものでした。

家の中には幅3尺、長さ6尺ほどのアペオイ（囲炉裏）があって、アペエトク（主人の座）の両方の隅には直径10センチの皮付きのエンジュの木が埋め込んでありました。それは彫り物をするときのイヌンベサウシベ（削り台）で、アペエトクに座った父はそのイヌンベサウシベで、色々な生活用具を作っていました。

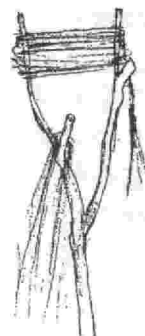
この削り台は、何年も使って減ってしまうと、父がアペオイから

それを引き抜き、家の外にあるヌササン（祭壇）へ持って行き、ヒエやタバコなどを供え、「これをお土産に神の国にお帰りください」というような主旨のイノンノイタク（祝詞）をあげて、お祈りしました。新しい削り台はこの儀式を終えてからしつらえられました。

アペオイの上にはツナ（火棚）が吊り下げられてありました。ツナはアペオイと同じくらいの大きさで、その役目は、アペオイの火の粉が舞い上がって屋根裏に燃え移らないようにする事と、もう一つ、その上にヒエとかアワの穂を載せて乾燥させる事でした。

このツナは6、7歳の子供の頭がぶつかるぐらいの高さにありましたので、その頃私も急に立ち上がって、ゴツンとやることが時々ありました。すると祖母や両親が笑いながら、「背が高くなってよかった、痛いのはツナも同じだ、ぶつかった所へ息を吹きかけて痛いのを治してあげなさい。」と言うのです。そう言われると、私は痛さをこらえ、目に一杯涙を溜めながら、ツナのぶつかった所に、フー、フーと、息をかけたものです。

フチ（祖母）の座り場所も決まっていたいました。父の座から入口に向かって右側のアペオイ縁の間あたりです。そのフチが座っている前のアペオイには、カニッ、つまり二股になった糸巻棒が立ててありました。祖母は指先で繕った糸をカニッに巻きつけながら、私たち孫たちにウウェペケレ（アイヌの昔話）を聞かせてくれるのでした。もちろんアイヌ語です。



祖母は、私が特別可愛いらしく、「シメル（祖母は茂と発音できませんでした）」と、まず私の名前を呼びます。私の返事が聞こえると、糸を繕る手を休めもせず、ウウェペケレをゆっくりと話し始めるのでした。その昔話にはたくさんの種類がありましたが、話の中には色々な生活の知恵や人生の教訓が織り込まれているのです。立ち木はみだりに伐るものではない、流れている水は汚してはいけない、鳥でも獣でも大切にすると必ず恩を返してくれるものだ、等等。特に、老人を大切にされた子供が、他人からも神様からもほめられて、立派で幸福な人間になったという話は何度も聞かされました。

またフチは、このアイヌの昔話「ウウェペケレ」の他に、アイヌ

の神様たちの話「カムイ・ユカラ」もいっぱい話して聞かせてくれました。その数はどの位あったでしょうか。

その話の中に出てくる大地——二風谷のずうっと遠くに見える山々、流れている水、そして樹木、草花の一つ一つには神が宿っており、その神々は神の国では全く人間と同じ姿をし、同じ言葉を話し、夜には眠り昼は起きて働く、というのです。

子供の私は、祖母が話すその神々の話を何の疑いもなく本当のこととして聞いたのです。この祖母は昭和20年に95歳で亡くなるのですが、子供の私にとっては、まどない一流の家庭教師でした。私が今アイヌ語を不自由なく話すことができるのは、この祖母のお陰ですし、我が民族の誇りをこれだけ持つ事ができるようになったのも祖母のお陰です。

私が4、5歳の頃、2キロほど離れた親戚の家へ行く途中、二風谷共同墓地の下のケナシパオマナイの小沢に差し掛かった時のことです。祖母が「クコロジョン ポンノエンテレ（孫よ、少し待ってくれ）と声を掛けるのです。私が立ち止まると、祖母は杖を傍において沢の縁に座り、黒布の被り物をはずし、両手と顔を沢の水できれいに洗いました。

そして私のほうを向いて、「シメル、お前も洗いなさい」と言うのです。私は言われるとおり、手と足を洗いました。すると祖母は、「シメルが大きくなり、フチは死んでしまう。自分が死んだ後、この沢を通った時には、フチと一緒に顔を洗った沢だったなあと思い出してくれ」と幼い私に話すのでした。

（現在、ケナシパオマナイ沢の周辺道路は完全舗装になり当時の面影は全くありませんが、あれから50年もたった今でも、そこを通ると、私は必ず祖母のことを思い出します。その意味では、肉体は滅しても孫の心の中でいつまでも生き続けたいという祖母の願望は見事に達せられたと言えましょう）

（1-3）神々の森とシャモ

私が貧しいながらも心豊かに育った二風谷は、詳しく言うと、北海道の日高支庁にある沙流郡平取町二風谷というところなのです。苫小牧から襟裳岬の方に向かう国鉄日高本線の富川駅から国道237号線で20キロほど内陸に入った所にあります。

ここは北海道では一番雪が少なく温暖な地方です。付近を沙流川が貫流し、水田も広がっています。かつてはこの川でカムイチェブ（秋味）がたくさん獲れましたし、付近の山ではユク（鹿）やイセボ（野うさぎ）等もいっぱい獲れました。このように温暖で豊かな自然条件に恵まれた沙流川流域には、相当古い時代からアイヌが住みつき、アイヌ・コタン（集落）が点々とありました。私はこの沙流川こそがアイヌ文化発祥の地だと思っています。というのは、「カムイ・ユカラ」に沙流川はオキクルミ・カムイ（オキクルミの神）が住まわれた土地だとあります。

オキクルミ・カムイというのは、家の建て方、魚の獲り方、ヒエ・アワなどの生育の仕方など、アイヌに生活文化を教えた神様です。その神様が住んだ地はアイヌ文化の発祥の地でもあるわけです。

私たち沙流川のアイヌは、オキクルミ・カムイが住んでいた土地に生まれたということ誇りに思っていました。だから例えば、隣の胆振や十勝のアイヌの所へ行って挨拶する場合、まず、

「私は、オキクルミ・カムイという、天国から降りてきて私たちアイヌに生活文化を教えてくれた神の村、その村に住まい、生活している何の誰それというアイヌです」と名乗るのです。すると相手は、一歩退いて、「ああ、オキクルミ・カムイの住んでおられた村からおいでになった誰それ様か」といって、私たちを丁重に迎えるのでした。

ところで、この沙流川の中流にある二風谷の地名の由来ですが、私はつい最近まで知りませんでした。この間、知人の長井博さんが持ってきて見せてくれた明治25年の地図に、二風谷付近がニプタイ、つまりニタイ。それはアイヌ語で、森、密林という意味です。その地図を見て、私は二風谷の語源に納得する事ができたのです。

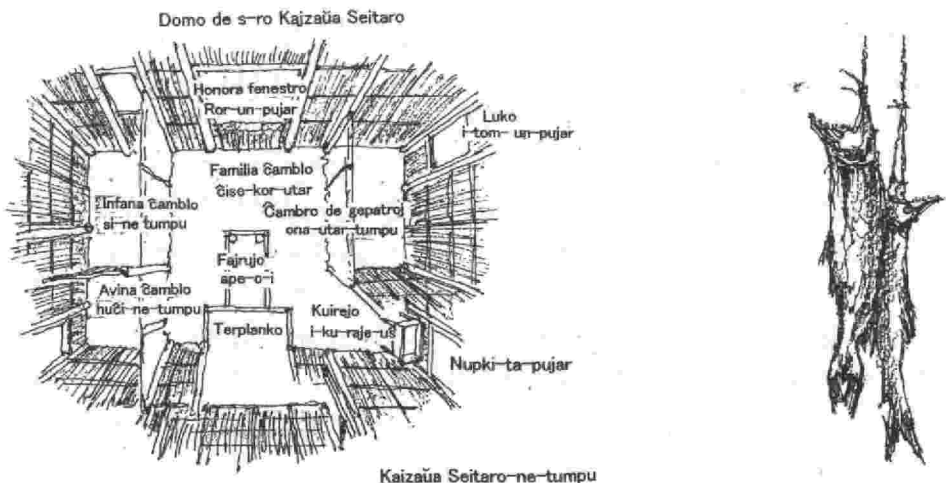
二風谷が森、密林であったという証拠の一つに次のようなことがあります。二風谷から6キロほど離れた平取本町に藤原食堂という蕎麦屋があります。その藤原食堂の先代・藤原勘一郎さんは平取に木材屋として入ってきた人です。勘一郎さんは、「あちこちで木を伐った内でも二風谷の桂は北海道一であった。目通り7尺ぐらいのものは珍しくなかった。

あまり良い桂ばかりあるので、記念に木挽きに板を挽かせ、その板で飯台を作った」と話してくれました。幅5尺に近い一枚板の飯台が、今でも藤原食堂にあります。その桂板の飯台を見ただけで、後に述べますが、20年間山子（樵などの山仕事をする者）を経験した私には、二風谷の裏山が密林であったということが目に浮かびます。

桂の木の密林、そしてその中にはたくさんのユクが群れをなしている。アイヌが肉を必要とする時は、いつでも林に入って行き、弓矢で好きなだけのユクを獲る……。そして時には、サカンケカムというユクの乾燥肉を作り貯蔵する。またその美しい桂の林の山の下を流れる沙流川には澄んだ水が流れ、秋になると、カムイチェブが川水を盛り上げて遡る……。

そしてアイヌは自分たちに必要なだけのカムイチェブを獲り、内臓を取り除いて開いて乾し、あるいは燻製を作って保存する……。私の生まれるずっと前の二風谷は、このように恵まれた大地でした。しかし、江戸時代にシャモ（和人）が、この地に入ってくると、この恵まれた大地に住むアイヌに目をつけ、漁場の労働に強制的に連行したりしました。

また明治になると、本格的にシャモが侵入してきて、アイヌが自然の摂理に従って守っていた“決まり”を無視し、勝手に“法律”なるものを押し付け、二風谷の美しい森も“日本国”や財閥に強制的に収奪されてしまいました。そうなってくると、この二風谷の大地も半分は楽しい土地とは言えなくなりました。



Kaizaia Seitaro-ne-tumpu

— iuan —

*SFERILO:Organo de San Francisco Esperanto Regional Organization (SFERO), 2010 年 Zamenhof-Bankedo 予告号、電子受信

*Mejlstono:2011 januaro N-ro 223 仙台E会: B5X 12頁中E.文6頁半。

年頭あいさつ、ザメンホフ祭、新年会報告など。Vizito al Vieno/GOTOO

Hitosiは Internacia Esperanto-Muzeo で見つけた Monata Raporto el Japanujo (1928年仙台の旧制二高のエスペラントグループ発行)を示す。

*Mejlstono n-ro 223 付録: B5X 12頁、日本文; 1. 仙台エスペラント会総会・ザメンホフ祭の記録 2. 会費等納入報告追記

総会の報告事項が1年間の活動総括になっている。

*受講生通信 第134号, 2011-2-01, 沼津エスペラント会, B5X10 頁の内E.文1頁。催し物欄に「第44回エスペラントセミナーオ(札幌)」。

*La Movado; 関西エスペラント連盟 (KLEG)発行, N-ro 720 februaro 2011, B5X16 頁のうちE.文4頁。Skizo pri nia movado en 2010は昨年の国内活動総括。「小学生のエスペラント・コーラス/牧野三男」はこどもにエスペラントをなじませる試み(仙台での写真入り)、星田との関わりにもふれる。

*La Informilo de NEC/センター通信 第263号, 2011年2月8日発行, 名古屋エスペラントセンター、A4 X10頁のうちEsp.文5頁、メール受信。1頁にザメンホフ祭の写真、11人の姿(7頁の記事では13人参加)が見える。Nek-

rologo (寺尾浩さん)、八が岳E.館だより、Unucikle pelgrimi —/Ikai Y. は見出しの横に一輪車の絵。昨年日本E.大会の長崎は日本のE.運動発祥の地の一つ (Alphonse Mistler), キリシタン殉教の26聖人、原爆投下、de triobla pilgrimejo. 浦上天主堂、コルベ神父館も li pilgrimis.

La Valo de Rivero Jarama/ハラマ河溪谷の歌(楽譜付き)/磯部晶策訳はスペイン市民戦争中の国際義勇軍から歌い継がれ昨年フランケーサ夫妻の来日の際一緒に歌われた。

*NOVA VOJO: N-ro 470 FEBRUARO 2011, EPA (エスペラント普及会)、A5 X34頁中E文9頁。2010-2011 越年エスペラント研修会、亀岡で韓国、モンゴル、メキシコ、アルゼンチンからの人も含め65人の参加。学生会員・北海道に池守千郎、小島光利家族会員・北海道に柴田家5人。緑の基金・北海道に大山口誠

*Eskalo 第139号(2011年第1号)、2011年2月16日、川崎E.会、B5 X8 頁のうちE.文1頁。電子雑誌 fotogazet の名はエスペラントかどうか、の議論が3頁弱。

*Novajoj Tamtamas: Internacia Gazeto de Jokohama Esperanto-Rondo (JER, Hama-Rondo); N-ro 257/ februaro 2011, A4X4頁、全文E. BELETRO 欄に佐藤春夫原作の Orienta violono de Minoru が連載第2回。

*La Tamtamo: 第429号, 2011年2月号, A4X8頁, JER発行、日本文。横浜エスペラント会2010年度活動報告、会計

報告、2-3 月の予定など。

*SFERILO:Organo de San Francisco Esperanto Regional Organization (SFERO), 2011 年3月例会 (SFERO 第456 回例会) 予告号、電子受信

455 回例会報告: 恒例の場所でなくサンフランシスコ公共図書館(publika biblioteko) で開かれ、1月南サンフランシスコのBasque Cultural Center で行われた Zamenhof-Bankedo, 4月の規約改正・役員改選について話し合われた。なお ESPERANTO-USA (米国エスペラント協会) の年次大会は6月17-20日、Emeryville CA で開かれる。

*La Movado; (KLEG) 発行, N-ro 721 marto 2011, B5X20 頁の内E. 文4頁。巻頭言は「来年の国際青年大会に向けて——」、1965年大津での国際青年大会を振り返り来年の沖縄大会の問題点や進むべき方向を問う。「エスペラントの種まきを続けた橋口さん」の追

悼記の筆者は後藤純子(北海道)。

Salono「民間教育研究団体の会合で／野村忠綱」は「英語を母語としない人がそれを学ぶほど母語とする人との格差が拡大する」こと、文科省教科調査官の意見は「他の言語の存在を無視した言語差別である」など考えるべき問題を示している。Saluton! の二部合唱楽譜、秋の日韓共同大会で合同で歌う計画があるとか。

*NOVA VOJO: N-ro 471 MARTO 2011, EPA、A5 X32頁中E文11頁。巻頭言「E. を日本人は有利に取得」に「英語を十年学んだが会話もできなかったのにエスペラントは2年で使えるようになった」とあるが似た経験の人は多いようだ。Penso pri Oomoto kaj Esperanta Agado は5月のセミナー(札幌)に来る会話講師 Atilio さんの22年前にさかのぼる日本文化との縁を語る。

Rusa rok-poeto Ilja Kormilcev

ロシアのロック詩人イリャ・コルミルツェフ

Korĉmarjov M. E.

ハバロフスクの S-ro Korĉmarjov からの手紙を紹介します。

Miaj karaj amikoj kaj samideanoj el Japanio!

Mi volas ĉi-tiam sendi al vi miajn novajn esperantajn poeziajn verkojn-tradukojn de du kantoj de la tre bone konata kaj amata de sovetia kaj rusa junularo rok-poeto Ilja Kormilcev. Li mortis mallonge en London, lin ne povis savi eĉ anglaj kuracistoj, kvankam li estis ankoraŭ ne mal-juna homo. Sed je epoko de Gorbaĉov kaj unuaj jaroj de l'epoko de Elcin li estis unu el idoloj de ĉiuj junaj, de ĉiuj rok-amantoj en nia lando. Li mem ne kantis kaj ne eldonis siajn kantojn — ilin ĉiujn kantis tre bele estimata en tuta Sovetio rok-grupo "Nautilus-Pompilius". Ke ilin

eksciu ankaŭ kaj esperantistoj, legantaj vian revuon.

Mi volas esti kun ci

Mi provis foriri de l' amo
Mi prenis akran razilon kaj riparis min
Mi kaŝiĝis en kelo, mi tranĉis
Rimenojn el lado, premintajn mian malfortan torakon.
Mi volas esti kun ci
Mi tre volas esti kun ci
Kaj mi estos kun ci
En ĉambro kun blanka plafono
Kun rajt' je espero
En ĉambro kun vido sur fajrojn
Kun kredo je amo.

Cia nomo delonge iĝis alia
Okuloj perdis por ĉiam sian koleron de blu'
Ebria kuracist' diris diris al mi ke ci ne estas plu
Fajrestingisto diris ke plene brulis cia dom'.

Sed mi volas esti kun ci
Mi volas esti kun ci
Mi tre volas esti kun ci
Kaj mi estos kun ci.

Mi rompis vitron kiel ĉokolad' en mia man'
Mi tranĉis ĉi-tiujn fingrojn tiel ke ili
Ne povas tuŝeti cin.
Mi rigardis ĉi-tiujn vizaĝojn kaj mi ne pardonas
Tion ke ili sen ci vivi ĉi-tiam konas.

Sed mi volas esti kun ci
Mi volas esti kun ci
Mi tre volas esti kun ci
Kaj mi estos kun ci

En ĉambro kun blanka plafon'

Kun rajto je espero
En ĉambro kun vido sur fajrojn
Kun kredo je amo.

Mia muziko os eterna

Magnetofono staras sur tablo
Sur muro mi vidas ombron
Tiu ombro as iluzi'
Tiu ombro jam ne dancas kun mi
Ie iaj violonetoj
Kuşas sur ies mallargaj ŝultroj
Mia muziko os eterna
Se mi ŝanĝas la elektrodojn
Mi elprovis la tempon per mi
La temp' malaperis kaj aliigis.
Mola gipso de litotuko
Konservis la fornon de cia varmec'
Sed malnova termometro krevis
Estas bone ke ci foriris.
Mia muziko os eterna
Se mi ŝanĝos la elektrodojn
Denove ĉe l' tablo mi sidas,
Ĉe l' kajo la lunon mi vidas,
Ĝi naĝis kaj malaperis en malproksimecon
Kaj baldaŭ ĝi ekposedos sian anataŭan belecon
Kiam mi ŝanĝos la elektrodojn.

Mia muziko estos eterna.
Se mi ŝanĝos la elektrodojn
(Mia muziko os eterna)
(Mi devas ree komenci ĉion)
Mia muziko os eterna
(Mi devas ree komenci ĉion)

以下彼の近況報告です。障害者で生活が困難なことはいつも書いています。
時々いくらかカンパしましたが やはり状態は同じようです。手紙（やカンパ）
は 次のアドレスに どうぞ。(La Red.)

S-ro Korĉmarjov M. E

H'abarovsk, ul. Vologaevskaja, d.153, kv.70, 680000 Rusio

Miaj karaj japanaj amikoj!,

Mi ankoraŭfoje petas vin pri iu monhelpo. Kvankam mi laboras malmulte kiel jurnalisti mi ricevas tre malgrandan monon, kaj mi estas invalido kaj mi bezonas monon por pagi por loĝejo, por kuraciloj por mi kaj mia jam tre maljuna patro. Mi ankaŭ revas pri vojaĝo en Vladivostokon, al maro(kaj por renkonti S-ron Aleksandron Titajevon).

Sed mi ne havas monon eĉ por unu la plej malpreca(malmultekosta?) bileto. Mi esperas je via kompreno kaj helpo.

Sincere via

Mihail Korĉmarjov

[第3 回HEL 委員会議事録] Protokolo de la 3-a Komitata Kunsido de HEL

日時: 2011年1月22日(土) 13:00~14:40

場所: 札幌市北区北8条西3丁目 札幌エルプラザ2階

出席者: 横山委員長、樺山委員、星田委員、後藤(義)委員、後藤(純)委員、阿部委員

議事:

1. 組織 HEL 会員は52名。前回と同じ。名簿を整理中で会費6人期限切れ。会員全員に往復ハガキを出し、所属している機関とメールアドレスを照会し、近況を報告してもらう。
2. 広報 (HP) ホームページの1997年11月からの累積アクセス数が1月22日現在で66256。前回11月は、66028であったので、2か月で約130のアクセス数となる。
3. メールマガジン 前回145号で1045部を発行。部数に大きな変化なし。
4. 教育・研究 札幌エス会の入門クラスは一名。

札幌エス会の土曜会は、「八十日間世界一周」の読書会が終わりかけで、次のテキストを 検討中。札幌エス会の月曜会は、「さよなら日本」の読書会をやっていて、次の予定が「星の王子様」。

苫小牧エス会は、昨年入門講習に新入生なく、入門クラスはなし。「銀河鉄道の夜」を読んでいる。5月の入門講習のために苫小牧市教育委員会の後援を依頼する。

5. 機関誌

1月22日(土)に機関誌 H.de HEL N-ro 133 を 90部発行。

6. 年間計画 北海道大会は10月2日(日)かでの2・7。スローガンは「日本大会の成功に向けて がんばろう」。午前中は総会。午後は拡大LKK。

全国セミナーについては次回の機関誌に案内を入れる。

7. その他 切替氏のHEL 委員の辞任を承認。

次回委員会：3月12日（土）13時より市民サポートセンター打合せコーナーにて

[第99回日本大会5 回LKK 議事録] Protokolo de la 5a Kunsido
de Loka Kongresa Komitato por la 99a Japana Esperanto-Kongreso

日時：2011年1月22日（土）15:26～

場所：札幌市北区北8条西3丁目 札幌エルプラザ2階

出席者：星田委員長、横山委員、樺山委員、後藤（義）委員、後藤（純）委員、阿部委員
1. 2012年10月6日～10月8日の日本大会の部屋の数であるが、○印だけにした方がよいと考える。一コマ75分にしてほしい。これは、JEI 担当者から、部屋割りの資料に○印をつけ一コマ90分の要求があったが、それはLKKとしては断り、LKK 側の当初の計画どおり75分で割り振るということである。

2. LKK の会計を阿部委員に決定。足りない部分は後藤（純）委員がサポート。銀行口座については阿部委員とJEI の犬丸委員で話し合う。入金を確認してから部屋を取る。3. 試験会場は、健常者とblinduloj で分ける。

4. テーマについては下記の4つの案が出る。他にも案があるか例会などで聞いてみる。

- ・環境保護とエスペラント～その心はどちらも地球を救う。
- ・緑のことで緑を語ろう。 ・緑の北海道から世界の緑化を
- ・緑の大地に緑の星を根付かせよう。

5. バンケードは来年の春に決める。

6. JEI へ札幌のホテル紹介を伝える。

7. エクスクルソの案として、今の時点で、小樽観光と、自然観察会を検討中。

8. 札幌市に後援依頼。

9. 記念出版物はエス版絵本「よみがえれ、えりもの森」。星田委員長が著者と著作権 許諾書を取り交わす準備を整えている。出版については、星田委員長がJEI と話し合い 細かい打ち合わせをする。JEI の出版物としたい。

10. HEL の歴史については冊子で出せそうであれば出す。星田委員長と樺山委員（、横山委員） で日本大会に間に合うか検討する。

11. 後援を来年3月までに依頼する。

12. 大会テーマに則して講演者を依頼する。元北大苫小牧演習林長の石城謙吉（いしがきけんきち）名誉教授へ依頼。 （北大苫小牧演習林は石城氏退任後、

北海道大学北方生物圏フィールド科学センターに名称変更)

*追記 3月10日、石城氏、講演を承諾!!

13. 切替氏のLKK 委員の辞任を承認。

14. JEI に今後の準備作業日程表の提出を依頼する。

次回委員会：3月12日(土) 15時より市民サポートセンター打合せコーナーにて

[編集後記/Redaktanto parolas ...]

*前号(N-ro 133)の10頁の委員会報告とLKK議事録で「第〇回」の数字が抜けていたので手書きで入れました。

Protokolo de la 2-a Komitato Kunsido と

第4回LKK議事録、la 4-a Komitato de Loka Kongreso Komitato

と書き込みましたが、漏れがあったらごめんなさい、Pardonon!

北海道エスペラント連盟 会費/年

正会員 3000円、青年会員(26歳未満) 1500円、

購読会員 2000円、家族会員 1000円

HOKKAJDA ESPERANTO-LIGO

ĉe HOŜIDA Acusi

Miyanomori 2-18-18, TOMAKOMAI

053-0844 JAPANIO

TEL-FAKS:0144-74-2539

Postgirkonto (郵便振替) : 02700-6-17075

*Sekretario: KAWAI Yuka

N-ro 45, Simin-Katudo-Sapoto-Senta

Sapporo L-Plaza 2F, Kita 8 Nisi 3

Kita-ku, Sapporo, 060-0808 Japanio

TEL-FAKS : 0126-62-4636

Retadreso : nordano@sea.plala.or.jp

*TTT-ejo : <http://www5d.biglobe.ne.jp/hel/jp/index-j.htm>

北海道エスペラント連盟

〒053-0844 苫小牧市

宮の森町2丁目18-18

星田 淳 方

Retadreso:hosidaacusi@kir.biglobe.ne.jp

*事務局:川合由香

〒060-0808 札幌市北区

北8条西3丁目札幌エルプラザ

市民活動サポートセンター 1階No.45